

メンタル不調者とパーソナリティ障害

香川大学院医学系研究科
角 徳文

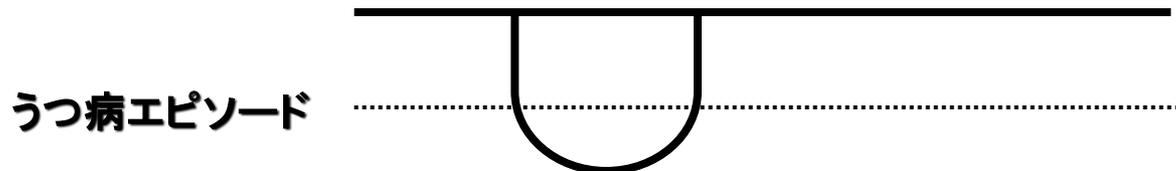
産業保健総合支援センター 2025/10/7

職場での有病率の高い精神障害

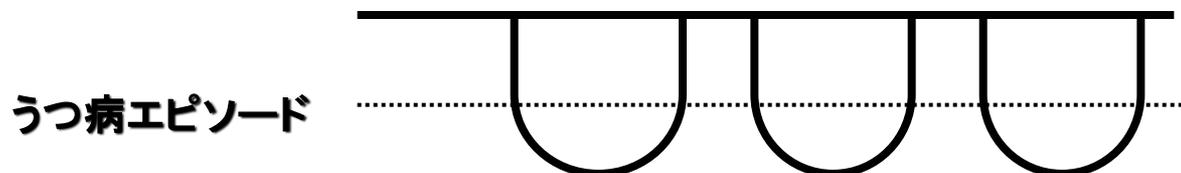
大うつ病性障害	2.6%
特定の恐怖	2.3%
アルコール乱用	2.1%
社会恐怖	1.1%
全般性不安障害	1.0%
間歇性爆発性障害	0.7%
パニック障害	0.6%
外傷性ストレス障害	0.5%
気分変調性障害	0.3%
アルコール依存症	0.3%
双極性感情障害Ⅱ型	0.3%
パニックのない広場恐怖	0.1%

気分障害の病相性

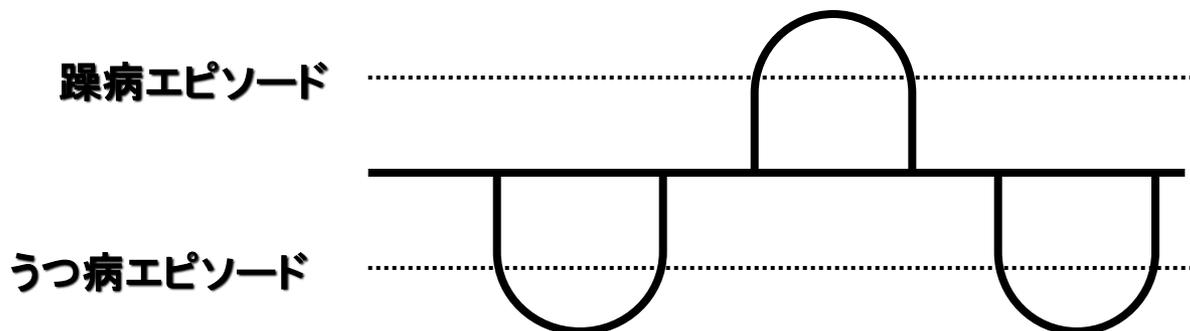
a) (単一)うつ病



b) (反復性)うつ病エピソード



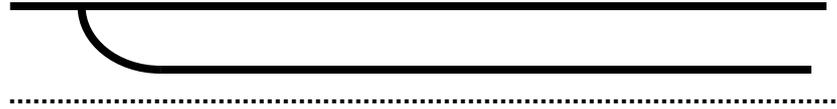
c) 双極性障害



気分障害の持続性

a) 気分変調症

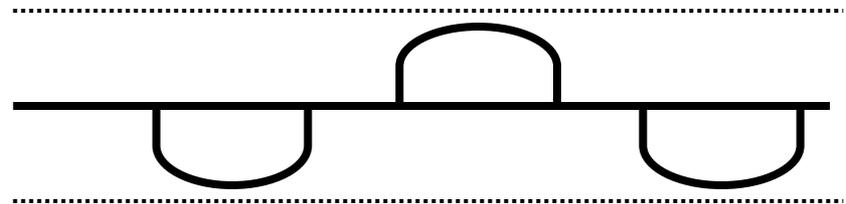
うつ病エピソード



b) 気分循環症

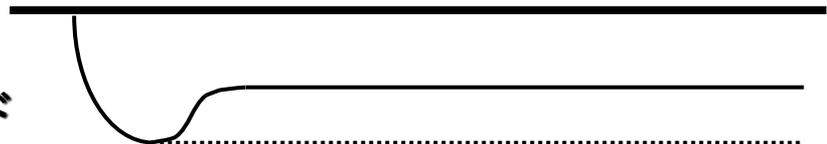
躁病エピソード

うつ病エピソード

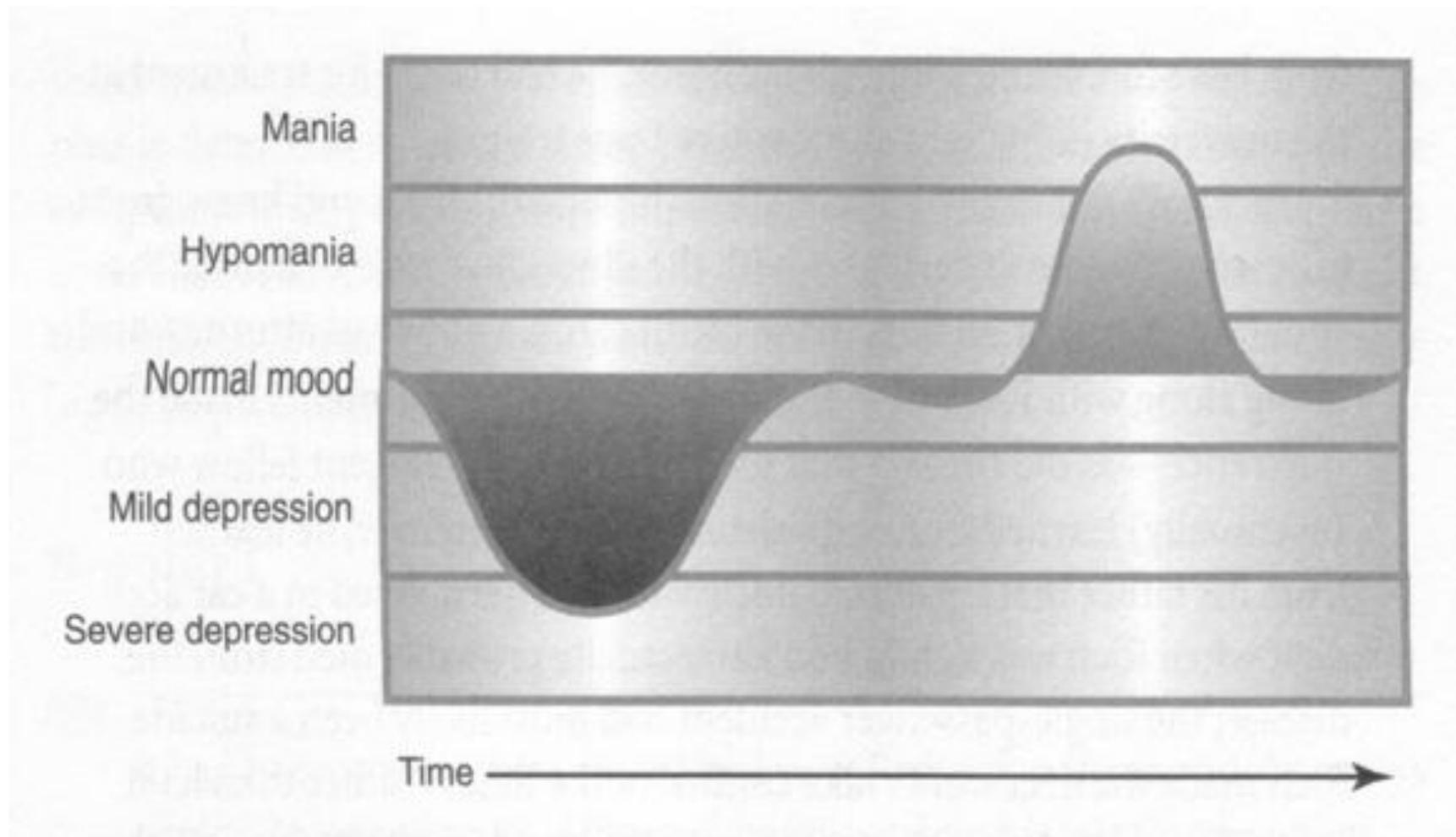


c) 遷延性うつ病

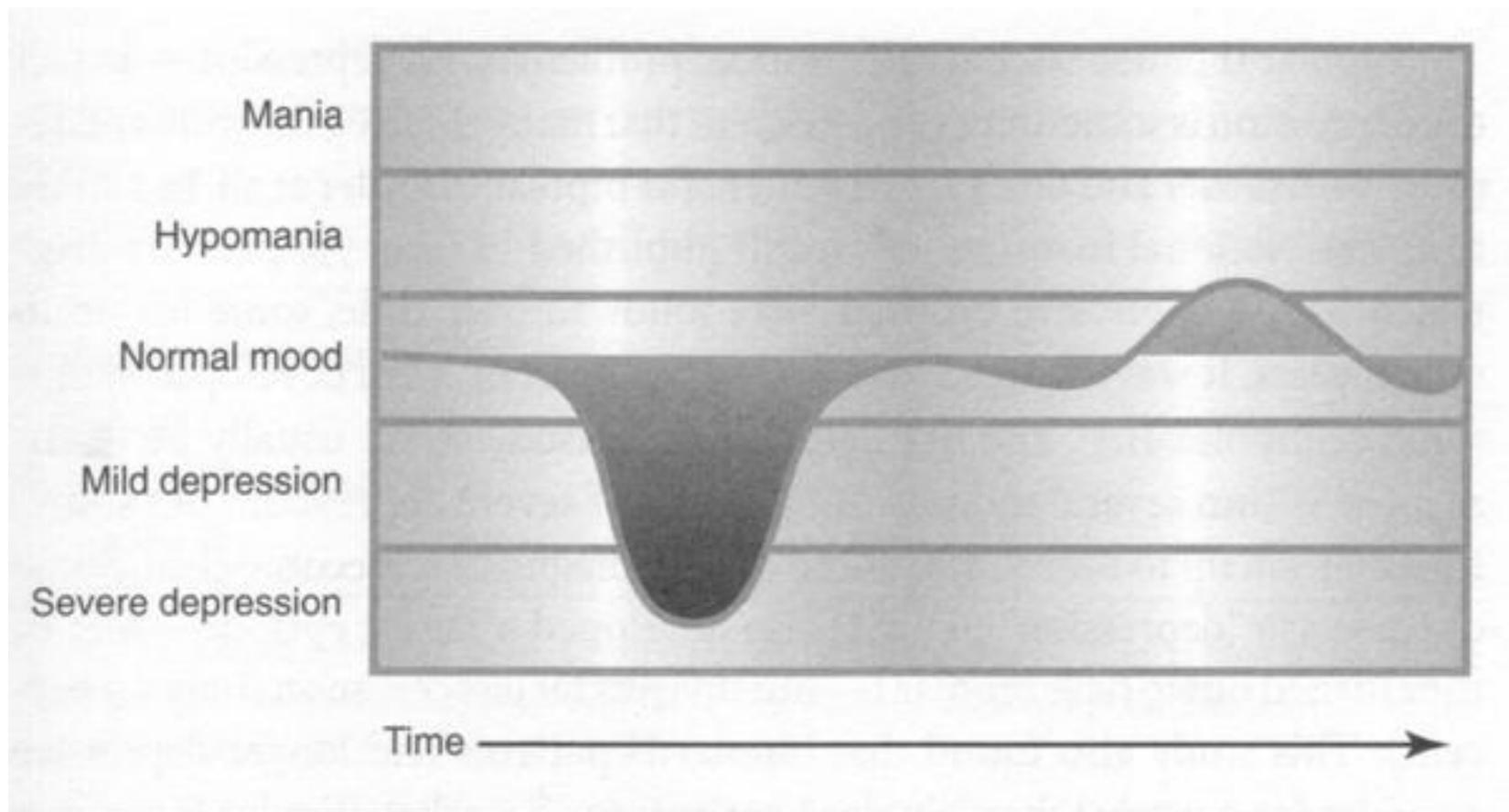
うつ病エピソード



双極Ⅰ型障害にみられる気分の変動



双極 II 型障害にみられる気分の変動



職場での有病率の高い精神障害

大うつ病性障害	2.6%
特定の恐怖	2.3%
アルコール乱用	2.1%
社会恐怖	1.1%
全般性不安障害	1.0%
間歇性爆発性障害	0.7%
パニック障害	0.6%
外傷性ストレス障害	0.5%
気分変調性障害	0.3%
アルコール依存症	0.3%
双極性感情障害Ⅱ型	0.3%
パニックのない広場恐怖	0.1%

パーソナリティ障害の歴史

背徳症候群 Moral Insanity

(E・クレペリン：中間概念)

精神病質 Psychopath

(K・シュナイダー：正常からの逸脱)

パーソナリティ障害 Personality Disorder

(DSM-ⅠⅠⅠ：人格全体に互る機能障害)

→所属する社会の文化的規範に順応できない人

パーソナリティ障害とは

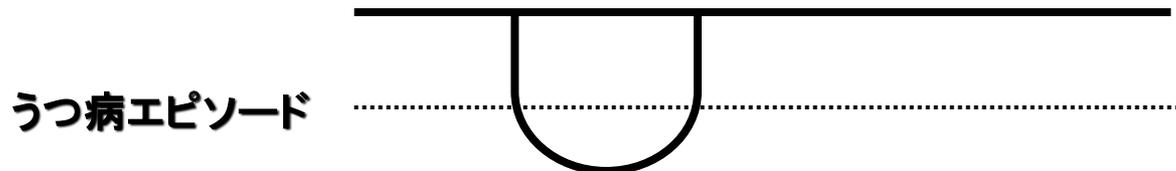
- 人格（パーソナリティ；personality）とは、個人の特徴的な行動や思考の様式であり、人柄を表す性格（character）と同じ意味で用いられることもある。
- 人格障害（personality disorder）とは、平均的な成人に比べて極端な思考・行動様式をとり、結果として社会への適応を著しく困難にしていたり、精神的な症状によって本人が苦しんでいる状態。

他の精神障害と何が違うか

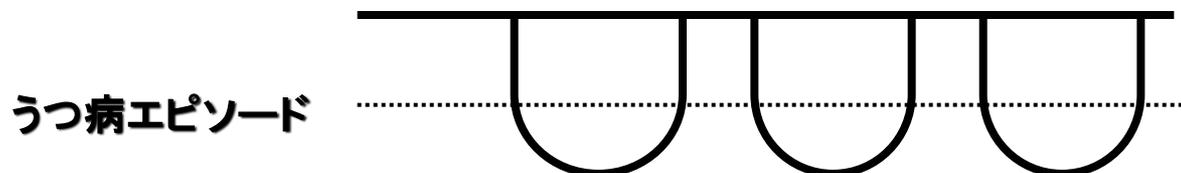
- うつ病、躁うつ病や統合失調症は身体の器官である脳に生じる機能異常が原因と想定される
- 心理的に了解不能の精神症状が出現
例) 幻覚、妄想、異常行動など
- 必ずしも誘因は必要としない
- 薬物により症状が反応、改善する
- パーソナリティとは無関係である

気分障害の病相性

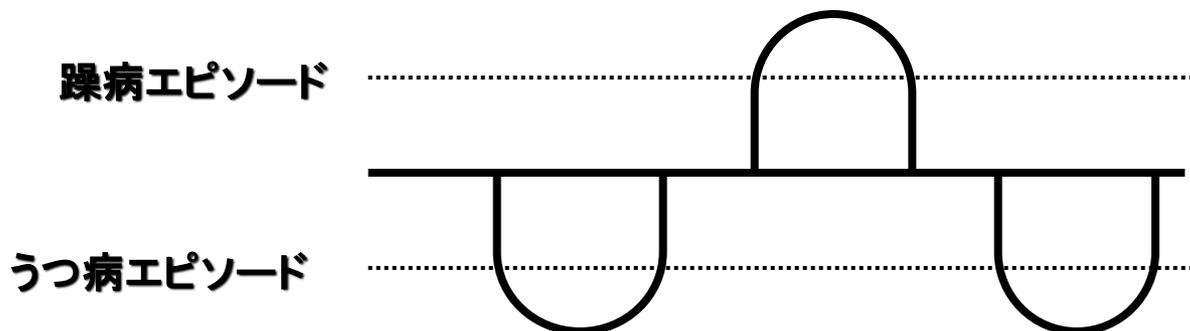
a) (単一)うつ病



b) (反復性)うつ病エピソード

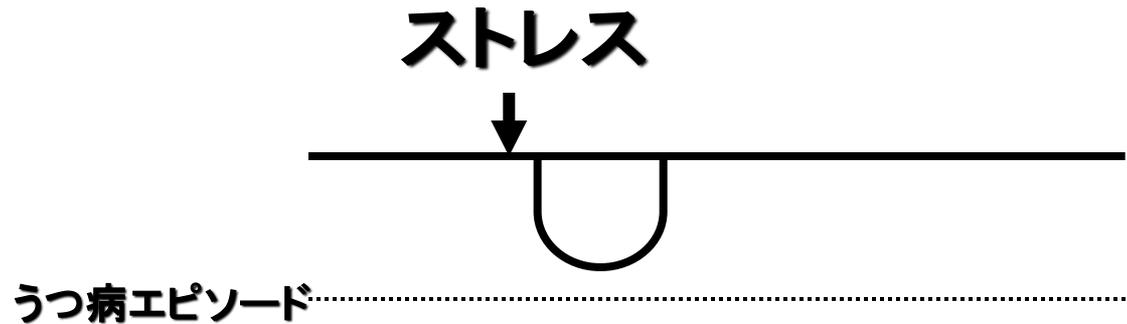


c) 双極性障害

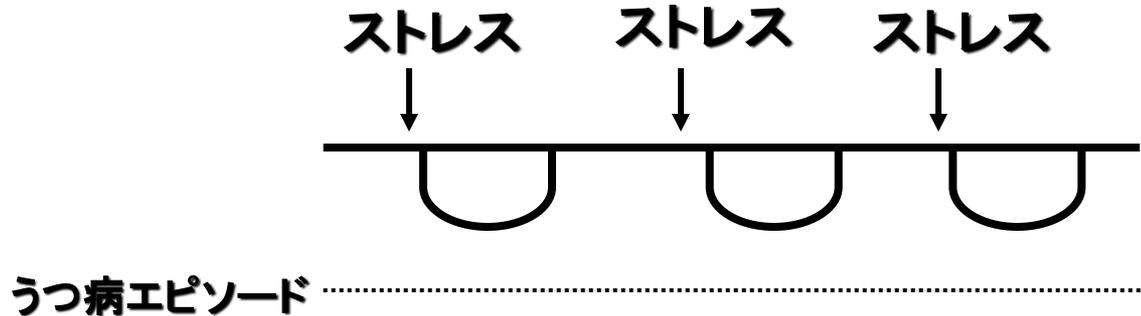


非うつ病性のうつ状態

1) 適応障害



2) パーソナリティ障害



パーソナリティ障害の種類

DSMでは、パーソナリティ障害を3つのカテゴリに分けている。

クラスターA

妄想性人格障害 Paranoid personality disorder

統合失調質人格障害 Schizoid personality disorder

統合失調型人格障害 Schizotypal personality disorder

クラスターB

反社会性人格障害 Antisocial personality disorder

境界性人格障害 Borderline personality disorder

演技性人格障害 Histrionic personality disorder

自己愛性人格障害 Narcissistic personality disorder

クラスターC

回避性人格障害 Avoidant personality disorder

依存性人格障害 Dependent personality disorder

強迫性人格障害 Obsessive-compulsive personality disorder

クラスター A

- **風変わり**で**自閉的**で**妄想**を持ち**やすく****奇異**で**閉じこもり**が**ちな性質**を持つ。対人関係にストレスを生じることが多く、社会生活上支障をきたす。
- 「妄想性人格障害」「統合失調質人格障害」「統合失調型人格障害」の3つ

クラスターB

- **感情の混乱が激しく演技的で情緒的**なのが特徴。ストレスに対して脆弱で、他人を巻き込む事が多い。
- 「反社会性人格障害」「境界性人格障害」「演技性人格障害」「自己愛性人格障害」の4つ。

クラスター C

- **不安や恐怖感が非常に強い** 人格障害です。まわりに対する評価や視線などが非常にストレスになる傾向がある。
- 「回避性人格障害」「依存性人格障害」「強迫性人格障害」の3つ。

スキゾイド・パーソナリティ障害

- クラスターA

- 統合失調質人格障害。特徴は、身の回りへの興味・関心と自己表現力の欠如である。人との交流を避け、口数は少なく、抑揚も乏しく、よそよそしい。そして、人と深く関わることによって自分と相手が変わることを怖れる。
- 学童期、思春期にいじめなどの体験
- 器用さ（芸術、裁縫、料理）

境界性パーソナリティ障害

- クラスタ－B

- 対人関係や社会的同一性における不安定さ、感情コントロールの障害、見境のない行動（過食、自傷、物質乱用、性依存など）を呈しては、治療状況その他を混乱させ、周囲に警戒感、無力感、排除感をもたらす
- うつ病、解離性障害、不安障害として診断
- 最近ではクレーマーなどにも変化？→自己愛性パーソナリティ障害

境界性パーソナリティ障害の特徴

- 見捨てられ不安、慢性的虚無感、不安定な感情（爆発）、投影性同一視が特徴

投影性同一視；自身が受け止めきれない自身の嫌な部分や認めたくない感情を、他者に投影することで嫌な自分と向き合うことを回避する行動

- 以前は手首自傷、過量服薬（薬物乱用）、過食、性依存という行動で臨床現場で対応に苦慮した

自己愛性パーソナリティ障害

• クラスタ－B

- 自己愛は、誰にでもあるもの。それにより自分を大切にし、さらに他人も大切にすることができる。加齢とともに成熟するものでもある
- 自己愛性パーソナリティ障害の人は、自己愛が未成熟な状態にある
- その未成熟さの現れが「自己の誇大化」、「他者からの評価に対する過敏さ」、「共感性の薄さ」となる

◆誇大な言動

- ・自分は才能がある特別な人間だと思い込み、それに伴った言動が目立つ
- ・有名人や権威のある人と知り合いであることを自慢する

◆他者からの評価に過敏

- ・恥をかいたり、屈辱感を抱いたりするとカッとなって激しく怒り出す
- ・ときにはその憤りを超え、落ち込み、自殺を考えだすこともある

◆他者への共感性の薄さ

- ・自らの成果や目標達成のために、友人を利用したり裏切ったりという行為をする
- ・傲慢な性格のため、あまり自分の意見を言えない友達を従えてあたかも自分が一番偉いかのように振る舞う

自己愛性パーソナリティの障害

- これらの肥大した自己、特別であるという空想、称賛されたいという気持ちが受け入れられない状況となると障害として出現する

自己愛性パーソナリティの障害

- うつ病、薬物依存、摂食障害、他のパーソナリティ障害の併存など
 - 「無自覚なタイプ」「周囲に過敏なタイプ」によって出現する障害は異なるかもしれない
- » 追い詰められると他罰的となることに注意

30歳 独身女性

- 大学卒業後すぐに上京し入社。与えられた仕事をそれなりにこなしていたが、あるプロジェクトに参加して、深夜までの残業が続くようになると情緒不安定となり、時間を度外視して「辛さ」をマネージャーに携帯メールするようになった。当初は毎回丁寧に返信していたが、次第にメールの数が増え、職場でも依存的となり、体調不良を訴えるようになった。
- 産業医が対応すると、対応が悪いから余計具合がわるくなると、過食、自傷を訴えて精神科受診。うつ病の診断で休職。
- 復職をめぐる会社と対立。会社の配慮義務違反があるという弁護士の通知書が送られる。

自己愛的、他罰的

- 古典的な出社拒否

出社したい気持ちとしたくない気持ちの相克。
負い目。

- 現代の出社拒否

出社したい気持ちがあることは確かであるが、
過程の中でそれがみえなくなっている。否認。
出社を促す親、治療者、上司が出てくると、出
社させたがる対象と出社したくない自分の対立
構図ができる。他罰的な態度の出現。

パーソナリティ障害への対応1

•基底のパーソナリティを把握する

- 従順で争いを好まない（内心カッともしない）他と一緒にを好まぬ：スキゾイド・パーソナリティ障害
 - クラスターAでは、自立、怒りを出させない、自己体験を重視する
- 負けず嫌い、劣等感、加害不安、見捨てられ不安
 - クラスターB：境界性人格障害、自己愛性人格障害など

32歳 女性

- 慢性抑うつ、過食、過量服薬で受診。長年境界性パーソナリティ障害として治療を受けてきたが改善がなく受診。
- 大学卒業後、就職。上司との折り合いが悪くどうしようもなくなって手首自傷。切羽詰るとひきこもり過量服薬。
- 見捨てられ不安がなく、対人接触はむしろ冷たい、希薄。子供のころから他と交わることを好まないが、努めてはきた。集団を好まず、絵画、文筆、読書が好き。他人との交際がないと生きていけないという不安がある。確認癖があって生活が滑らかにいかない。
- 性格を自覚し、もっと本来の性格に沿った生き方を模索することを勧める。

パーソナリティ障害への対応3

- 目の前の状態に振り回されない、とらわれな
い。追い詰められている心理を読み取り、受け
止めながら、自分を見つめる場を与える。
- 低い社会技能であることを知るべき、自覚さ
せるべき

25歳 男性

- ✓中学の先輩に仕事を手伝わされて調子が悪いと訴えて来院
- ✓給料は1か月たってももらっておらず、保険の手続きも曖昧。「断ると後が怖い」から続けている
- ✓妻の来院を促す
- ✓妻が事情を知り、相手と会って退職。

パーソナリティ障害とうつ病の違い

- 2～3年以上のうつ状態は気分障害では説明できない？
- うつ病では、抑うつ気分、意欲低下、不眠、食思不振といった状態が続いており、体重減少といった身体的変化が一定期間の間に起きる
- 一方、パーソナリティ障害では訴えにもかかわらず、実際には他覚的な身体的障害はない
- うつ病の場合、自責的である（他罰的にはなり得ない）
- クラスタ－Bの場合、相手の感情を逆なでするのも特徴

パーソナリティ障害

- 実際には“うつ状態”“適応障害”といった診断書が作られることが多い
- 基盤にあるパーソナリティ傾向（≡クラスター）に目を向ける必要
- クラスターAのような場合、業務を変更することで適応することは可能かもしれない
- 治療によって改善するという保証はない
- 自覚・自己責任といった対応も必要

発達障害とは

生まれつき脳の一部の機能に障害？があると考えられている。同じ人に、いくつかのタイプの発達障害が合併していることも珍しくない。同じ障害がある人同士でもまったく似ていないように見え、個人差がとても大きい。

発達障害としては、自閉症スペクトラム障害（自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害など）、注意欠如・多動性障害(ADHD)、学習障害、チック障害などが知られている。

自閉症スペクトラム障害の一般的な特徴

- 典型的には1歳台で、人の目を見ることが少ない、指さしをしない、ほかの子どもに関心がない
- 保育園や幼稚園に入ると、一人遊びが多く集団行動が苦手など、人との関わり方が独特なことで気づかれることがある。
- 必ずしも言葉を話し始めた時期は遅くはないが、自分の話したいことしか口にせず、会話がつながりにくいことがしばしばある。
- ゲームやアニメのキャラクターなど、自分の好きなことや興味のあることには、毎日何時間でも熱中するが、初めてのことや決まっていたことの変更は苦手で、なじむのにかなり時間がかかる。

成人期の自閉症スペクトラム障害

- 思春期や青年期になると、自分と他の人との違いに気づいたり、対人関係がうまくいかないことに悩んだりし、不安症状やうつ症状を合併する。
- 就職してからも、仕事が臨機応変にこなせないことや職場での対人関係などに悩んでしまう。
- 子どもの頃に診断を受け、周囲からの理解を受けて成長した人たちの中には、成長とともに症状が目立たなくなる人や、能力の凸凹をうまく活用して社会で活躍する人もいる。

成人期の自閉症スペクトラム障害の治療

- 症状が出現する際の原因の検索(過度なストレス、生活上の変化等)を行い、まず環境調整を試みることが重要。一部薬物療法も併用。
- 身近にいる親や配偶者が本人の特性を理解していることも重要。それによって本人が安心するだけでなく、上司などに対し特性を伝えることによって、本人にふさわしい学校や職場環境が整う。
- 現在、成人を対象とした対人技能訓練や認知リハビリテーションを行っている施設は少ないが、対人関係上の問題への対処方法を身につけるには有効。地域の発達障害者支援センターが、自閉症スペクトラム障害者を対象にしたグループ活動を行っていることがある。

注意欠如・多動性障害(ADHD)とは

- 学童期頃までに出現
- 発達年齢に見合わない多動-衝動性、あるいは不注意、またはその両方の症状
- 学童期の子どもには3～7%存在し、男性は女性より数倍多いと報告されている。学校などの特定の環境下で、症状が顕在化したり問題化する。
- ADHDの症状にはADHDでない小児にもみられるものがあるが、ADHD児ではこうした症状がより頻繁に、より重症に現れる。
- ADHDは神経伝達物質の異常により生じることが推測されている。

注意欠如・多動性障害(ADHD)の特徴

不注意の徴候:

- 細部に対して注意を払えないことが多い
- 勉強や遊びでなかなか注意を持続させられない
- 直接話しかけられても聞いていないようにみえる
- 指示に従わないことが多く、言われたことをやり遂げられないことが多い
- 課題や活動を手際よく行えないことが多い
- 精神的な集中力を要求するような課題に取り組むことを避けたり、嫌ったり、やりたがらないことが多い
- 外からの刺激を受けるとすぐ気がそれる
- ものをなくす、物忘れが多い

注意欠如・多動性障害(ADHD)の特徴

多動性の徴候:

- 手や足を絶えず落ち着かなく動かしたり、体をくねらせたりすることが多い
- 教室やその他の場所で席を離れることが多い
- 過度に走り回ったり何かによじ登ったりすることが多い
- 余暇活動で、静かに遊んだりおとなしく参加したりすることができない
- 絶えず動き回っていたり、「モーターに動かされているように」振る舞ったりすることが多い
- しゃべりすぎる人が多い

注意欠如・多動性障害(ADHD)の特徴

衝動性の徴候:

- 質問が終わるのを待たずに答えを口走ることが多い
- 自分の順番を待てないことが多い
- 他人の邪魔をしたり割り込んだりすることが多い

成人期の注意欠如・多動性障害(ADHD)

- 多動症状は、一般的には成長とともに軽くなる場合が多いが、不注意や衝動性の症状は約50%が青年期まで、約25%は成人期まで続くともいわれる。
- しかし青年期や成人期になれば、たいていの場合、自分の不注意に適応することを学んでいく。
- 学業不振、片付けられない、自尊心の低さ、不安、抑うつ、適切な社会行動の習得困難などの問題が青年期や成人期に顕在化したり、あるいは小児期から引き続いてみられたりすることがある。
- 一方で、ADHD児が成人になると生産的・創造的な人間になることも稀ではないこと、ADHD児の場合は学校よりも働く環境への適応が良好であるともいわれる。小児期に適切な治療をしなかった場合、飲酒、薬物乱用、自殺のリスクが高くなることもあるといわれる。

27歳 女性

- 派遣社員。取引先との仕事について上司から指摘され手首自傷。クリニックから睡眠薬、抗うつ薬。
- 他人に対する操作性、見捨てられ不安などはない。
- 母親によれば落ち着きのない子供。通信欄には常に忘れ物が指摘されていた。現在も片づけが全くできない。
- 派遣先変更後はデータ入力の仕事、服薬はしていない。

パーソナリティ障害と発達障害

- 衝動性

パーソナリティ障害は他人を巻き込む、操作する意図が背景にある。発達障害では、不快な刺激を単に体験から排除することが目的である。

- 情動不安定性

パーソナリティ障害は相手の気持ちを巻き込む、逆なでする（例；投影性同一視）

- 対人関係

発達障害では、共感の欠如や「暗黙の了解」の不理解から話がくどくなることはあるかもしれない。パーソナリティ障害は、自分の欠点や弱点を指摘されると相手を激しく攻撃する。

ご清聴ありがとうございました